

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090201227		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームあさま		
所在地	群馬県高崎市上並榎95-1		
自己評価作成日	令和2年11月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和2年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・閑静な住宅の中にホームがあり穏やかな生活を送れている。 ・近くに薬局やスーパーなどがありちょっとした外気浴や買い物などにも行きやすく地域の方とも接する機会がある。 ・隣に同じグループホームが併設となっており交流やや行事など今後生かしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所して間もないがコロナ禍の現状を受け入れ、模索しながらも、利用者本位の支援に取り組んでいる様子がうかがえる。住まいを変えたばかりの利用者は家族との面会が叶わず、家族もまた利用者を案じる、といった双方に負担が生じている現状を打破し、利用者、家族の希望に応えるため、リモート面会や電話でそれぞれの不安を解消する手立てを工夫し、実施している。また、事業所内でのみの生活になっているが、廊下を歩いたり、家事を手伝うことで力を維持し、デッキや玄関先でお茶を飲む機会を作り、少しでも社会との接触や気分転換を図る取り組みをしている。さらに、新規開所を機にWi-Fiを設置し、YouTubeからの動画や情報を日々のケアに活かしたり、折り紙の折り方、歌詞カード、四季の映像等これまでのレクリエーションに新しい工夫を加え、充実を図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の掲示している。現在はコロナウイルスの関係で職員会議が開けず職員全員で復唱は出来ず。	理念は開所時に経験者が集まり、法人の方針を基に、管理者、職員からどのようなグループホームにしたいか、その思いを聞き作成した。職員は介護経験を活かし、理念を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの薬局やスーパーなどを利用し利用者様にも関わりを持って頂きたいと思っているが現在コロナウイルスの影響で出来ていない。	運営推進会議のメンバーとして地主に声をしたり、地域のイベントに参加できるように区長とも関わりを持つ等、地域の一員となって交流が図れるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の開催や行事、避難訓練などにも参加していただき地域とのかかわりを持っていきたい。現在コロナウイルスの影響で出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の中で近状報告や議題を上げその中で話し合いを行きたい。現在コロナウイルスの影響で出来ていない。	現在は運営推進会議の開催はないが、家族、地域代表、行政等関係者に近況報告や面会制限に関するお知らせをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在コロナウイルスの影響で開催できていない。家族には電話等で近状報告を行っている。	法人の課長が窓口になり、市担当者と連携を図っている。令和3年5月より認定調査の立会いを予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の議題に上げ職員と共有して行きたいと考えているが現在コロナウイルスの影響で出来ていない。玄関は安全性を考慮し閉まっているが外気浴などで外に出る機会を作っている。	玄関は自動ドアで、現在はスイッチで開閉をしている。スピーチロックについては職員間で認識し、他の拘束もしないケアを実践する為、身体拘束適正化委員会を開催し、話し合うことを予定している。	玄関の施錠は身体拘束にあたるので、少しでも開錠できる時間を作る工夫をしてみたいか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に一度に身体拘束適正委員会を開き防止に努めて行きたいと考えているが現在コロナウイルスの影響で出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している方は居ないが必要な場合に備えて職員会議などで学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に入る前に見学、状態確認、申し込みなどでよく話し合い家族の疑問や意見などを聞き出しその都度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の中に本社相談窓口の介護事業部の紹介や行政の窓口など記載箇所を説明している。	グループホームを初めて利用する人が多く、意見や要望は管理者の他、法人窓口、行政窓口でも受付けていることを利用者、家族に説明している。日常会話を通して利用者から要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務日報を交換に日記の様に使用し日頃の悩みや考えなど聞くようにしている。	日常業務の中でやっていいこと、こういう場合はどうしたらよいか等を職員間で話し合い、意見や提案は管理者も含め業務日誌で共有し、支援や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度人事考課を行い担当課長、管理者、職員で面談し評価など行う。面談の中で日頃の悩みや考えなどを聞き出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で議題に取り入れれたり法人内の研修や広州などに積極的に参加するように努めていきたいと考えているが現在コロナウイルスの影響で出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に二回ある管理者会議の中で意見交換の場や勉強会がある。職員同士も法人内の研修のなかでグループワークなど行って行きたいが現在コロナウイルスの影響で出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に状態確認に伺いその中でお話を聞かせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で管理者かケアマネがご家族の要望など聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に要望などを聞いた段階でカンファレンスを開きケアプランなどに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事などは極力一緒に食べたり家事など出来る方には一緒に行くなど共同生活を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナウイルスの影響で面会や行事の参加は出来ないがリモート面会や電話などを使用し家族との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナウイルスの影響で出来ない。解消されれば友人などにも面会に来ていただけるよう配慮したい。	家族や普段会えない人とリモート面会や電話で話し、関係が途切れない工夫ある支援をしている。アセスメントで縫物やおやつ作り等利用者の趣味や好きな事を把握し、その継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操の時間やレクリエーションの時間を利用して利用者様同士コミュニケーションを図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行っても面会や家族の方と連絡を取りその後の様子をうかがっている。現在あさまでは退所者は出ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いや不安を聞き出し家族に相談やカンファレンスの議題に上げている。	ケアマネジャーは3回場所と時間を変えて利用者と話し、2回同じことがあったら、それを真実と捉え職員に伝えている。利用者が発した何気ない言葉を業務日誌に記録し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所日前や入所日に管理者またはケアマネからその方の今までの生き方や性格、趣味など教えていただきケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録に詳細を記入し共有をしている。また特変などあった場合は申し送りを行って対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となりカンファレンスの中で話し合いケアプランを作成している。	ケアマネジャーが毎月モニタリングをし、介護計画は3ヶ月ごとに、また聞き取り後、必要に応じて見直しをし、担当者会議も開いている。その人らしさが出る個別プランの作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などケア記録や支援経過表などを使用し職員間で共有し日々のケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりの中でどの様なケアをしたか各自ケア記録で確認しどの様な訴えやニーズがあるか考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウイルスの影響で出来ていない。解消されれば買い物や散歩などこの地域の利便性を活用し生かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に担当医の説明を行っている。もし、かかりつけ医など家族の希望などがあれば対応できることも伝えている。	主治医の選択ができることを説明しているが、現在は全員が協力医の往診を受けている。歯科は必要に応じて、毎週火曜日に治療を受けられることになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ノートを作成し週に一度の訪問看護師と情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院へ出向き日々の状態や退院の見込みなど先生をはじめ看護師などに話を聞かせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の事例はないが同じ会社内のGHではいくつもの事例がある。対応することになった場合には実際の話聞かせてもらい対応に生かしたい。	入居時に、段階的に協力医の判断で終末期対応をし、看取りができることを説明している。看取りを経験した職員もいるので、利用者、家族の希望に沿った終末期の支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成。日々の業務の中で事故報告など見ながら話すようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在コロナウイルスの影響で出来ていない。今年度中には消防署立ち合いの元避難訓練を行う予定である。	現在は消防署立ち合いのない避難訓練を実施し、報告している。ハザードマップによる地域特有の災害はない。水、食料品、排泄用品等を備蓄し、ラジオ、充電器、非常用バッグを設置している。	玄関先までも、自主訓練の回数を増やし、いざという時に備える取り組みをしてみたいか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりその方に合った声かけを対応できるようにまた職員間で帰宅願望などの訴えた方には同じ声掛け統一したケアができるように話している。	声かけは職員間で統一し、利用者が混乱しないよう個別対応を心がけている。呼び名はさん付けにし、異性介護になる場合は羞恥心にも配慮し、普段から信頼関係の構築に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の望みや思いを聞き出せるような声かけまた聞き出せた場合には家族にも伝えケアに生かしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく利用者様のペースに合わせたケアを日々行って行くようにと指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立度が高いためその方が着たい服や身だしなみなど行って行けるようにケアしていく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在はパレット(配食業者)利用している。現在コロナウイルスの影響で外食などの行事ができないためお弁当頼んだりお菓子作りなど取り入れ対応している。	配食と手作り、それぞれのメリットを話し合い、週5日は手作りの食事にすることを検討している。季節感のある食事やおかずを一口大に調理する等個別対応をしている。職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人が食べやすい形態で提供し対応している。食事量や水分量などは実施記録にて把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアや毎週の歯科往診などで口腔内のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを把握しその都度声掛けを行っている。また夜間などPTなども使用し残存機能を生かしながらのケアを行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、「どうですか」と声かけをし、利用者の返事に合わせて誘導している。夜間は巡視の時に声かけをしている。自分で行ける利用者には自立継続の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分などにオリゴ糖などを使い便秘改善に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を週に4回設けていてその中で本人の希望や体調などを配慮し2回の入浴を実践している。	入浴は週5日実施し、利用者は週2日を目安に入浴している。入浴が苦手な利用者が多いので、在宅の時と同じように入浴できる環境作りを心がけている。自分用のシャンプーを使う利用者もいる。	連日になっても、入浴ができることを情報として提供し、利用者が入る、入らないの選択をする機会を設ける取り組みをしてはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿い居室で過ごしたいときなどは無理に体操などには参加せず過ごしたい場所で過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し往診後の薬変更時には話し合いを行いその後様子など密に連携をしている。また職員も薬情ファイルで確認し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前に嗜好品や趣味、仕事など本人の生活歴から得た情報を参考にしケアに生かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルスの影響で出来ていないが駐車場やウッドデッキなどで外気浴やお茶会など行い外に出る機会を作っている。	コロナ禍にあり外出できないが、外を見るため玄関まで行く、玄関先に椅子を置いてお茶を飲む、駐車場まで出てみる、ウッドデッキで外気浴をする等、外出に代わる機会を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所前に家族や本人に確認し希望があれば所持できるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモート面会や電話など家族の方の協力があり比較的スムーズに行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来て4ヶ月の施設であり新しく綺麗で良かったと言葉をいただいている。また木目を多く使った施設であり木のぬくもりを感じられ利用者様、家族より好評をいただいている。	テーブルが2卓、高めの位置に移動式テレビがある。生活臭、排泄臭対策として定期的にゴミを処理し清潔を保ち、カレンダーや時計、献立、季節感のある掲示で大人らしい雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの真ん中に談話室を設け利用者様同士や家族との面会などで使用出来る空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に家族様に使い慣れた家具やお気に入りの物など持ち込み可能なことを伝え希望に沿うようにしている。	居室にはベッド、エアコン、寝具があり、使い慣れた物を持ち込み、届いた手紙やぬり絵のカレンダー、時計を飾っている。昼寝をしたりコーヒーを飲んだり、居室で自由に過ごせる支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など利用者様に分かりやすく掲示している。また目印になるように掲示物なども作成している。		